

# 大槌町民生委員児童委員協議会 ～長期化する仮設住宅の見守り活動～

(平成 26 年 3 月 28 日掲載)

東日本大震災発生からもうすぐ3年になろうとしています。被災地で災害公営住宅への入居が始まるなか、大槌町では、災害公営住宅の建設予定に遅れが出始めており、仮設住宅での生活が長期化することが予想されます。

仮設住宅へ入居してから2年半が経過しましたが、元気で働ける世帯から仮設住宅を出て生活を再建し、一人暮らしの高齢者世帯が取り残されていく傾向にあるように感じています。

また、これまでの仮設住宅内の自治会も全ての地区で良く機能しているとは言えませんが、なかには自身を犠牲にしながらか仮設住宅にとどまっている自治会長・お世話役さんもいます。しかし、そうした方々もいつまでもいるとは限りません。仮設住宅の入居が長くなれば長くなるほど、高齢者の生活状況とそこに入居する人々を支える地域の機能は徐々に低下していきます。災害公営住宅への移転後の地域づくりも大切ですが、あまり先のことだけに目を向けず、いま仮設住宅に入居している高齢者を最後まで支えていくことが重要ではないかと感じています。

## 1. 仮設住宅の入居状況 (平成 25 年 12 月末現在)

仮設住宅		入居者		入居率 (B/A)	空き部屋 (A-B)
団地数	戸数 (A)	世帯数 (B)	人数		
48 団地	2,106 戸	1,876 世帯	4,149 名	89.1%	230 部屋

## 2. 災害公営住宅の入居状況 (980 戸建設予定、現在 125 戸完成 平成 25 年 12 月末現在)

災害公営住宅名	大ケロ地区公営住宅	吉里吉里地区公営住宅	屋敷前公営住宅
戸数	70 戸	34 戸	21 戸
入居率	100%	97%	100%

このような状況のなか、大槌町では、一人暮らし高齢者世帯、高齢者夫婦世帯、障がい者世帯、子育て世帯等、気になる世帯の見守り活動を続けています。

また、毎月1回各地区で行なわれる会議では、社会福祉協議会の生活支援相談員や町地域包括支援センター、ケースワーカー、保健師等と情報共有を行なっています。

震災発生から3年を迎えます。復興への道のりはまだまだ長いと感じていますが、今後も様々な方と協力し合い地域課題に取り組んでまいります。



仮設住宅談話室での元気になる講演会



小鎚地区民協会議